

2016年(第18回)全国中高等学生日本語学力競試大会
<2次大会(スピーチコンテスト)発表原稿>

中等部 8名 / 高等部 12名

社団法人 韓日協会

IT 産業、未来、そして韓国

中等部 심은 (沈恩, Sim Eun)

21 世紀、この時代を生きている私たちには電話、郵便、紙の本という言葉よりはスマホ、電子メール、デジタルブックという言葉にもっと慣れてしています。そしてこのようなデジタル情報化時代にとって IT 産業はなくてはならない不可欠な要素の一つです。IT 技術と言うのは情報の生産と応用、管理に關したすべての技術を呼ぶ言葉です。近来 IT 産業は飛躍的な生産効果を上げるごとにより現在、世界的な関心がこの IT 産業に集まっていると言っても過言ではありません。そして、おそらく今後の企業または国家の成長は IT 産業の発展しだいでしょう。

現在、日本 IT ベンチャー企業らはスマホ、ビッグデータで外国人の観光客などの動きをのぞいて移動パターンを分析した後、情報を必要としている企業や役所に提供して、効果的な販売促進が出来るようにします。また、世界的に有名なアップルからもうすぐ販売する 아이폰7 で 3.5mm のヘッドフォン端子がなくなるものと予想され、ライトニング端子を繋ぐことで、ヘッドフォンで音楽を聞くことができるようになりました。このように現代社会では過去、約 10 年前、携帯電話、文字どおり電話しかできなかつた時とは違って今のスマホは万能に近いです。

だったらこの IT 産業の未来はどうなるでしょうか。ある調査によるとモバイルの技術を導入した企業はふつうの企業より生産性と創造力がそれぞれ 16%、18% 高く、業務の満足と忠誠心はそれぞれ 23%、21% も高かつたそうです。モバイルは全ての世代を通じてビジネス利益を提供し、企業の最高情報の役員は適切なモバイルの戦略の開発と実行で事業の成果を向上させることができるという結果を導出したのです。実際、グーグルやアップル、フェイスブックなど、グローバル市場で 1、2 位を争う IT 企業の共通点はほかならぬ 21 世紀の代表的な文化コンテンツ産業と評価されているゲーム関連産業、その中でも、モバイルゲームを大きく扱うという点です。だけではなく、ゲームをゲームに限れず、IT 分野のもう一つのトレンドになる AR/VR のような技術と結び付けるという点もまた彼らが世界的に優位に位置した理由でしょう。こんなに世界は "モバイル"、"IR/VR"、"ゲーム" というこの三つのキーワードを IT 産業の未来と見ています。

絶えず発展する IT 産業、韓国は、一応 IT 強国と呼ばれていますが、果たして 10 年後の未来にもそう呼ばれることが出来るでしょうか。韓国が IT 分野で淘汰されないためには韓国が強みを持っている 'ゲーム' という文化コンテンツだけでなく、韓国だけが持った特殊な長所である '韓流文化コンテンツ'などを VR 技術と結び付けてそのシナジー効果でグローバルへの影響力を拡大し、また政府の支援を通じ、次世代が IT 産業にもっと興味を持つようにしなければならぬと思います。速いスピードで成長して行く IT 技術、10 年後の未来にも韓国が IT 強国と呼ばれるのを期待してみます。

漫画を名画に

中等部 박혜린 (朴惠潏, Park Hye Rin)

こんにちは。朴惠潏と申します。

今日は皆さんに私が尊敬する人について紹介します。私たちは今までたくさんの番組を見て来ましたが、子供の時に一番たくさん見たのは断然アニメでしょう。そして、そんなアニメのほとんどが日本で作られたものです。その中でも日本漫画産業の中でにおいて私たちが一番よく知っている人を選べと言ったら、たぶんほとんどの人は '宮崎駿' を思い出すはずで。そうです、私が尊敬する人は '宮崎駿' です。

宮崎駿は日本アニメの大家です。彼の天才性を証明するものとしては彼の作品製作方式が挙げられます。彼は自分が直接企画書を書いて、漫画のコンテを考えて描いて、それを元にして原画製作課程を総括して映画を製作したそうです。このような作品製作方式は最近のディズニー、ピクサーの色々なアニメ作品のように、コンピューター3D作業を利用した効率と便利性を追求するデジタル製作方式とは対比される手描きを使用するアナログ的な方式です。このような彼の作品製作方式から彼だけの独特な面が見られて、これを通じて長期間たくさんの観客の郷愁を刺激して来たと思います。

私はこんな彼の製作方式がとても気に入りましたが、ここに加えてアニメにストーリーと登場人物達を通じて世界に向けた深みのあるメッセージが込められる彼の能力にもっと感動をしました。彼の作品の中で特に感銘を受けた作品は '風の谷のナウシカ' です。

その理由は、一番目に、彼はこの作品を通じて環境破壊に関するメッセージを伝えようとしたためです。大衆が気軽に接近できるアニメという媒体を通じて環境破壊と言う重い問題を観客達に伝達して考えさせるようにした点が印象ぶかったです。二番目に、彼は現実で疎外されてきた存在達をこの作品の主人公と背景にした点です。産業化の以来、人間達は環境をなおざりして来たし、自分の利益のために環境を無惨に踏み付けて毀損してもいい存在だと思ってきました。また、女性達も昔から男性達に抑圧されて疎外されて来た社会的な弱者でした。けれども、この作品の主人公はナウシカと言う幼い少女であり、背景も自信を破壊した人間達にその対価をそのまま支払わせるようにする自然その物です。彼はそんな疎外される存在達をこの作品の主人公にすることで私たちにこのような問題についてもう一度考えてみえるようにします。三番目に、彼はこの映画を通じて帝国主義を批判します。この映画の内容を見ると、トルメキアと言う王国がナウシカの故郷の風の谷を侵略して植民地にして支配しています。こんな映画のストーリーを通じて、トルメキア王国の帝国主義的な面を見られて、彼はこんな姿を批判的に表現することで自然に帝国主義についての批判意識を観客に伝達します。

ここまで私が尊敬するアニメの監督、宮崎駿と彼の作品、'風の谷のナウシカ' について話しました。誰もが気軽に見て忘れがちなアニメですが、世界に向けた叫びを含めて渾身の力を振り絞った作品は傑作になり得ると思います。そのためにたとえ彼が現在隠退していたとしても、彼の作品は国と世代を越えて相変わらず愛されていて、これからもずっとそのはずで。

ご清聴、ありがとうございました。

迷わない翼になる夢

中等部 이도경 (李度庚, Lee Do Gyeong)

はじめまして、わたしはチュンチョンブク・ドに位置する小さな田舎町、ミウォンから来たイ・ドギョンと申します。

今日は私が皆様に「私にとって夢とは何だろうか？」ということについてお話ししたいと思います。この世界は数えきれない夢でいっぱいだと言っても過言ではないほど、人は誰でも幼い頃から心の奥深いところに“夢”と言う希望を持っています。そして、その夢を実現するために、“努力し、自分を振り返る”その過程の中で、夢は未来に向けて羽ばたく翼となっていくと考えます。

しかし、私は今すぐはまだ羽ばたくことはできません。なぜなら、今私は翼を広げるための飛躍の足場を築いている段階だからです。しかしながら「私は夢のために努力したものが何も無いのではないか」と不安にかられる時もあります。そんな時振り返ってみると、これまでの数々の出会いや過ごした日々の中で出会った全ての、一つ一つが積み重なって私の足場となっていた事に気付きました。ただすれちがった様な事が、私の教えになっていた事を知り、もっと熱心にならなくてはならないと刺激になったりしました。

私には小学生の時、なりたかった職業がありました。それは判事でした。正直な世の中になればいいなと思ったからです。しかし、判事は私にとって、とても高い壁で、その壁を越えられるのかどうかと悩みました。そのため「夢というのは本当に叶うものなのだろうか」と夢を信じられなかった事もありました。でもこのような躊躇いや迷いを越えて初めて、もっとキラキラ輝く私の夢を見つけることができましたのです。翼を広げてもう迷わずに、もっと高い所を目標にして行きたいという欲も生じました。

そのような夢を胸に抱いて「私に起こること全ては、どんなことであっても、私の夢のための事であるかも知れないと考え、一度振り返ってみることにしよう」と考えました。偶然な出会いを大切な出会いとして、小言ではなくかけがえのないアドバイスとして、少しずつ心を変えていくと自分との約束をしました。

迷わない翼になる夢を持つ過程で、たびたび迷うのは当然のことであり、その迷いを恐れる必要はありません。なぜなら夢が叶う日は誰にでも訪れるのであり、何よりも夢は結果ではなく、叶える過程の中で大切なことを見つけることだからです。その中で私は、夢とはなりたい職業を言うのではなく、自分だけの夢の意味を発見する契機と確認を繰り返すこと。つまり、私はこのような過程を繰り返しながら、どんなことにも揺れない巨大な翼を未来に向かって持つことができるでしょう。

その迷わない翼を広げて、明るい未来に向けて空高く飛んでいけるはずですよ。そんな私を皆様も一緒に心から応援してください。

ご清聴ありがとうございました。

友情

中等部 김태우 (金泰珢, Kim Tae U)

こんにちは。私はソウルサンユック中学校三年生の金泰珢です。私は友情についてお話しします。私は六歳から一緒に遊んだ友だちがいます。その子の名前は엄영찬(オム ヨンチャン)です。その子はお母さんと別居し、お父さん、姉、伯父と四人で暮っていた友だちです。私の母はそんな事情を知って彼と仲よしになれと言われてくれました。同じ幼稚園、同じ塾に通って一緒にいた時間が家族よりも多かった彼との間はまるで人の字の意味している漢字のようにお互いがお互いを支えながら助けてくれるそんな関係でした。

私は彼の家にたくさん遊びに行きました。毎度あそびばで遊び疲れたら家で休んだりベッドの上でいたずらをしたりしました。遊びに行くたびに彼の父はおやつをくれたりご飯も作ってくれたんですが、いつも自分の息子よりもわたしを気にしてくれました。

このように平穏に暮す日が続く小学校4年生の時、私は友人の表情から作り出されたような肯定さを感じました。それで私はなにかおかしいと思い"何かあったの?"と聞いてみたら、返事をしないとしたが、言いにくく口をあけ"僕の父が肝臓癌にかかったって。"私はこの瞬間だけは聞き間違ったと思いました。友人につれて病院に行ったら本当でした。強い薬のせいか髪の毛がすべて抜けて、ベッドに座っていらっやていました。本当に衝撃的でした。でも私の友人はほかの友達が気をつかわないように笑顔を見せてくれました。日課が終わった後、私の友人は悩みごとを言いながら、こんな話ができるのは私しかいないと泣き顔で自分の父のことを話しました。三ヶ月が過ぎ、病気は完治するのかと思いました。

お互い違う中学校に入って連絡はとるが会う日は少なくなりました。時間が経ち中学校1年の六月のことでした。その時また癌が再発しました。わたしはその時は試験のせいでとても忙しかった時期でした。大事な試験期間中だったんです。でも、ぜひ一緒にお見舞いに行こうと友人が話したので私は迷いもしいでお見舞いに行きました。だけどそれが友人のお父さんに会う最後の顔になるとは夢にも思いませんでした。私はスマートフォンを使いませんのでカカオトークで団体に情報を共有するのがたいへんでした。それで私は友人のお父さんが亡くなったのも知らず一週間を過ごしました。私は試験が終わりうれしい気持でスマートフォンを見たら亡くなったのに関する内容を読んで信じられませんでした。それで彼とすぐに会って葬儀場に行けなくて本当にすまないと言いながらそのことに関して話しました。私はその話を聞きながら流れる涙が我慢できませんでした。また一番だいじな友達がそんな辛いことに会ったのに、その時そばにいてくれなかったのが私自分にとっても恥ずかしかったです。彼は一週間という日が過ぎたわけか肯定的な姿を維持しようと頑張っているようでした。私は共感しながら彼にむしろ私が肯定的な態度を学びました。

最近には友達と言う概念が表面的な意味だけで友達でおおかた本当の心の通じる友達はあまりいないと思います。私はまだ16年しかならない短い人生を生きました。こんな幼い年に友情と言っても物凄い友情は探せないと思いました。私にとって友情はこのようなものじゃないかと思います。そし

て今回この大会を準備する過程で回りの友達の中で互いの内緒と痛みを分け合うことができるのははたして何人だろうかと考えるいい機会になりました。本当の友人とは自分がどのような困難に直面しても手伝いお互いの痛みを理解し一緒に悲しんでくれるそんなそんなざいだと思います。

今まで私のスピーチを聴いていただきありがとうございました。

ボランティアを通じて学んだこと

中等部 권세란 (権世蘭, Gwon Se Ran)

こんにちは。コヤン市のヘンシン中学校に通う、クオン・セラんと申します。

私のスピーチのタイトルは「ボランティアを通じて学んだこと」です。

皆さんは、ボランティアを一生懸命していますか？

韓国では中学生になると、ボランティアの義務時間が定められ、中学生生活 3 年間の間に 60 時間のボランティア活動が義務付けられます。

そのうち、半分近くの約 30 時間は、学校内の手伝いをすれば認められますが、残りの約半分は、学校外で自ら、ボランティアの場所を探さなければなりません。学生の多くは、駅周辺の掃除や、図書館内の本の整理などをして、義務時間を果たしています。できれば、自分の能力や、将来の夢に関わるボランティア活動が理想的ですが、日本語を使ったボランティア活動は、レベルが高いものばかりで、中学生の私のレベルにあうボランティア活動は、見つかりませんでした。

そこで私は、今年になって、自宅近くの福祉会館で 1 ヶ月に 1 回開かれる、美容ボランティアに参加することにしました。そこでは、老人を対象に、白髪染めやヘアカットを無料で行っています。もちろん、私は技術があるわけではありませんので、受け、飲み物のサービス、掃除などを担当しています。私の能力や将来の夢には、今のところ直接関係ありませんが、将来の夢のうちの一つがスチュワーデスなので、接客という点で少しは関係があるかな、という軽い気持ちで始めました。

初めの頃は、義務時間を早く終わらせたいばかりで、言われたことだけをしていました。「受けの時の声が小さくて、よく聞こえない。」などと注意されたりすると、恥ずかしいし、

「なぜ私が、こんな事をしなくちゃいけないんだろう…。」とも思いました。

でも、毎月通っているうちに、ボランティア活動のスタッフや、お客さんのお年寄り達に顔を覚えてもらい、声をかけてもらって、褒められるようになり、私にも変化がありました。

もっと喜んでもらいたい、役に立ちたい、お爺ちゃん、お婆ちゃん達の喜ぶ顔がもっと見たい。一生懸命頑張っても、適当に時間を過ごしても、ボランティア活動の評価には何の影響もありませんが、頑張る私がいいます。

それだけではなく、この経験を通じて、大人の中でも、色々な大人がいるんだということに気づきました。自分が将来、どんな大人になるべきか、身を持って学ぶことができました。社会に出る前に、このような経験ができるのは、とても価値があることだと思います。

今はもう、必要なボランティア時間はとっくに過ぎましたが、これからも通い続けるつもりです。

そして、この学ぶ気持ちと、人に役立つ喜びを忘れずに、これからもボランティアを通じて、沢山の
人を笑顔にできるようにになりたいと思います。

ありがとうございました。

友情について

中等部 김예진 (金藝珍, Kim Ye Jin)

こんにちは。

私はフェリオン中学校 1 年のキムイエジンと申します。よろしくお願いします。

みなさんは 近くて大切な友達に自分の本心を十分に表現していますか。

私が幼いころは友達とただ一緒に遊んでお互い楽しみを得る存在として軽くとらえて「友情」について深く考えたことはありませんでした。しかし小学生のころから仲良くしてきた親友とのことを通して 友情について深く考えるきっかけとなりました。一緒に漫画も描いたりゲームもしたり犬の散歩もしました。

町には散歩道があるんですが、そのみちに沿って犬を連れて散歩をすることが私たちの楽しみでした。私たちは中学生になって他のクラスになってしまいました。

いつも二人でいたので、他のクラスになっても登下校を一緒にして

昼休みも一緒に過ごすなど 以前と同じくたくさん時間を親友とすごしました。

けれども 時間が流れてみるとクラスメートとも仲良くなりたいたい気持ちがでてきました。それでクラスメートと一緒に過ごす時間を作りながら少しずつ新しい友達を作っていました。

それを親友が知ったら嫌がると思い秘密にしました。

ある日 体育祭が終わってクラスメートと学校の校門を出たところで親友に偶然会いました。その親友はとても怒りながら「どうして私を抜きにして他の友達と先にいけるの」と言いました。瞬間 私も腹が立ち クラスメートと一緒に親友を無視しながら立ち去ってしまいました。私が他の友達と行くこともできるのにここまで怒る必要があるかなと思って残念に思いました。その時から私は考えました。友達ってなんだろう。この友達は私をどう考えているんだろう。私はなぜ今までこの友達に正直になれなかったのか。と....

結局今は塾で会うだけで、それ以上登下校を一緒にしたり昼御飯を一緒に食べたりしない仲になってしまいました。とても簡単に仲が崩れたみたいで残念で申し訳ない気持ちになりました。親友と一緒に犬を連れて散歩道を走った楽しさはただの思い出になりました。もっと正直にお互い対話をしていたら今その親友とはどんな風に過ごしていたのでしょうか。親友に本当のことを言うと嫌がるかなと思いきなりクラスメートと密かに会いましたが、最初から正直に「私たちは親友だけど クラスメートとも仲良くなりたいたい。でもあなたと私の仲は全然変わらないはずだ。」と話していたら 親友は私の気持ちを受け入れてくれたのでしょうか。

そのことがきっかけとなり 「友情」とは大切な友達に本当の気持ちを伝え、自分の気持ちを素直に話すことが大事だと感じました。みなさんも大切な友達がいたり親しくつきあいたい友達ができたならば自分の気持ちを素直に伝えてみてください。

もう一つの現実、仮想現実

中等部 임서준 (林曙峻, Im Seo Jun)

こんにちは。林曙峻と申します。皆さんの前で発表する機会をいただいて嬉しく思います。よろしくお願ひいたします。

これから仮想現実について発表させていただきます。まず私がこの主題を選んだ理由は、普段から興味を持っていた分野であるだけに、調査、発表そのものを楽しみ、そして皆さんと共にその楽しさを分かち合えたらと思ったからです。

さて、仮想現実というのは、文字通り、IT 技術を用いて人工的に作った現実のようで現実ではない世界を意味します。そこには無限な可能性が存在し、想像の限界を超える世界が繰り広げられています。現実の限界を超えてどこまでも私たちを連れて行ってくれるのです。皆さんは全世界で愛されている映画 スター・ウォーズのような エスエフ映画が好きですか。家族や友達と一緒に遊びに行ったディズニーランドでの楽しい思い出は忘れられないでしょう。憧れの国への旅はもちろん、今や一層現実味を帯びてきている宇宙旅行だってロケットに乗らなくても行けるようになります。莫大な費用をかけずに火星にも、月にも毎日でも行けるのです。こういった巨大な世界がメガネ一つに収まるのを想像してみてください。ワクワクしませんか。

こうした遊びの目的だけではありません。ビジネスの場面ではプレゼンテーションの際に用いればより効果的に伝えられ説得力を格段に高められます。軍では戦争状況を シミュレーションして演習するところに活用できますし、'デジタルショールーム'という仮想空間で車を分解するなど様々なシミュレーションが可能になります。また、言葉だけでは説明が難しく直接経験してみないとどんな感じなのかよく伝わらない部分を生々しい仮想体験を通して理解を高め立体的な教育に導くなど、教育分野での多様な活躍も期待されています。

一方、まだ取り組むべき課題もあります。かつて流行した 3D 技術はそのアイデアは斬新だったものの、関連コンテンツの不足や質の落ちるコンテンツのために結局失敗してしまいました。その二の舞を踏まないためには多様なコンテンツ開発だけでなく画像のディスプレイの質を高めるとともに、使用に伴う目眩の症状を改善する技術開発も必要です。

日本ではソニ社の プレイステーションなど おもにゲーム分野での研究が活発に行われて未来ゲーム産業の中核になっています。購入するのに 10~20 万円位かかりまだ費用面での課題も残っていますが、速く開発が進みお母さんが快く買ってくださいるほど、より手頃な価格で楽しめる日が一刻でも早く来ることを待ち望んでいます。

仮想現実とはもはや仮想ではなく現実になりつつ、今まで未来の事だと思っていたのを現実よりもっと現実的な世界に置き換えています。すぐそこまで近づいてきたもう一つの現実で映画の中にいるような夢の世界を楽しんでみませんか。勉強のストレスが飛んでいきます。

これで発表を終わらせていただきます。最後まで聞いていただき、ありがとうございます。

私と日本語

中等部 최원석 (崔元碩, Choi Won Seok)

こんにちは。私は貴仁^{クイニ}中学校から来た崔元碩と申します。まず、この度、ここでスピーチさせていただき、誠に嬉しく思います。これより、私が日本語の勉強を始めてから今までの出来事をお話をさせていただきます。長くても、少しお堪えになって聞いて下さい。

時は2014年の春でした。小学生だった私は、或る日友人に日本式の名前をつけられました。その名前はよく覚えてはおりませんが、苗字は確か秋本^{あきもと}でした。秋本の韓国式の音読はチュボンなのに、これがどうしてアキモトと読むのかな、とこれに疑問を抱いた私は、その秋本について少し調べてみて、日本にも韓国と同じように漢字に音読と訓読があることが分かりました。そして、他の漢字、例えば坂^{さか}や沢^{さわ}などの発音がかっこいいと感じました。それがたぶん、私が初めて日本語の魅力に引かれた時だと思います。それから、私は日本語を習い始めようと思いました。一応、日本語の文字を勉強しなければならないので、ひらがなとカタカナの勉強をしました。2つの文字を覚えるのは難しく、時間も多くなるとも、もちろん分かっていました。そのため、時間と努力を沢山費やし、やっと3週間で全てが覚え切れました。しかし、文字という1つの壁を越えても、その先には単語と文法、そして漢字というもっとも巨大な壁が存在するものです。なのにそれを知らなかった私は、自ら無理に勉強しようと思いましたが、やがて目の^ま当たりにしました。そして、シサプラスという日本語の塾に登録をしました。最初に授業を受けた時は、正直がっかりでした。何故なら、そこにはおじさん達がいなかったからです。期待外れの授業で、登録したのを後悔しましたが、それはただの勘違いに過ぎませんでした。おじさん達がいてこそ、授業がもっと楽しく受けられました。おじさん達は私を褒めたり、励ましたりしてくれて、もっと気持ちよく勉強できました。難しいと思った文法と漢字も、簡単に勉強することができたと思います。ところが、いつからか1人ずつが授業を辞めて行きました。結局、最後まで残ったのは私1人だけでした。そして、授業への関心が前とは少し変わってきたため、しばらく塾を休み、独学モードに入りました。その独学期間に日本式の名前文化にもっと関心を持ちました。自分に秋本じゃない他の日本式の名前を作ってみたり、アニメを見て聴解の実力を増やしたり、小説を読んだりして約2ヶ月を過ごしました。それからまた塾に戻った時は、周りの先生達から日本語の実力が著しく伸びた、と言われて自分が誇らしく感じられました。それから1年が過ぎた今年の5月、私の家族は日本の首都の東京へ旅行に行ってきました。殆どの通訳は私が担当しました。そして、私は約2年も勉強してきた自分の日本語の実力を発揮しました。実際に、私がまるで現地の人のように日本語が上手に話せる、と言ってくれる日本人の方もいました。自分の日本語の実力が現地の人達にも認められているなんて、嬉しくてなりませんでした。

日本語への私の情熱はまだ冷めておりません。日本語はあまりにも、習いやすく面白い言語だと思います。これからは日本語を単純な言語のみならず文化として理解し、もっと勉強を続けて、様々な

日本の文化を正しい視覚で韓国に知らせたいです。以上でスピーチを終わらせていただきます。最後まで傾聴して下さいありがとうございました。

日韓関係改善を目指す、私の経験とそれを通して感じたこと

高等部 정영욱 (鄭映郁, Jeong Yeong Uk)

こんにちは。私は高麗高等学校、3年ジョンヨンウクと申します。

私は、日韓関係改善を目指し、私の経験とそれを通して感じたことをスピーチさせていただきたいと思います。

最近では、「グローバル時代」、「世界はひとつ」などという表現が一般的になってきました。これは国家間の争いがその国家だけの問題ではなく、全世界に影響を与えるということを表しています。最近多発しているISのテロ行為に対する国際社会の協力は、この良い例だと思います。

しかし、以前から韓国と日本は「領土問題」や「慰安婦問題」をめぐって過激な対立が続いており、このため外交トラブルはもちろん、両国民間も互いに反発心を強めています。これらは「グローバル社会」と呼ばれる現代において、両国の発展のために、必ず解決しなければならない問題です。これは両国が交流を通して、お互いを配慮する関係を作れば、徐々に改善できると思います。

私は、昨年10月、国立国際教育院が企画した高校生訪日研修に参加しました。6泊7日間の北海道での研修は、様々な交流プログラムを通して、日本の文化や日本人の考えをもっと深く知るきっかけになりました。

北海道の南富良野高校を訪問し、韓国と日本の学生たちが一緒に授業を受けました。また、昼ごはんを食べながら、普段互いの国に対して気になっていたことを聞く時間を持つことができました。日本の学生たちは、私達のために美味しいお弁当を準備してくださり、私達を心から歓迎してくれていることがわかりました。また、話を交わしながら、日本の学生たちがK-POPや韓国の文化に関心が高く、好意的だということもわかりました。もちろん、体育の時間にバスケットボールをするときには国のプライドをかけて、互いに手加減はしませんでした。終わった後には互いをねぎらいながら、もっと親しくなることができました。

この研修の中で、特に心に残ったのはホームステイ先で過ごした時間でした。私は田舎で一人で住んでいるおばあさんのところでホームステイをしました。おばあさんは会ったばかりの私に、まるで都市から遊びに来た孫のように温かく接してくださいました。その時、雪がたくさん降り、気温が低くなったせいか、私は少し風邪気味だったのですが、おばあさんは私を本当に心配してくださり、風邪薬や部屋の温度まで気をつけてくださいました。その日おばあさんが作ってくださったスキヤキの味は今でも忘れられません。お別れの時おばあさんは「体に気をつけて、ぜひまた来てね」と微笑んでくださいました。短い間でしたが本当の祖母のように感じ、別れが惜しくて少し涙が出そうになりました。そして、いつかもう一度、ここに来ようと心の中で思いました。

日本と韓国は、よく「近くて遠い国だ」と言われます。両国が協力し、もっと高いところまで飛躍するには、理解と和合が必要な状況に間違いなく、そのためには、両国間の持続的な対話と交流が必要です。私はこの研修を通して、それが決して不可能なことではないということがわかりました。数多くの小さな努力が続ければ、国民間の反感も減り、いつかお互いを理解する関係に発展するのではな

いかと思います。

以上でスピーチを終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

自分に合う成功

高等部 백승관 (白昇官, Baek Seung Gwan)

私は문일고등학교の3年生の백승관と申します。皆さん、成功という言葉に何が思い浮かびますか。多くの人々は成功という言葉に名誉、地位、富などを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、私は名誉、地位、富が成功とは思いません。本当にそのようなものが成功だとしたら、一生懸命生きているにも関わらず平凡な人々は失敗者になります。そうではありませんね。私はこの場で私が思っている成功について話したいと思います。私は5歳の頃から中学3年生になるまで塾に通いました。そして、その間学校、塾、両親から成功=名門大学、いい職場だと教わり、そのせいで、私は自分のやりたいことを探す時間もなく、興味のない勉強だけ続けました。そして、時間が経ち、高校の受験の進路調査で、私は大手企業で働く自分の姿を希望としました。しかし、その自分の姿に何の感情も持つことはできませんでした。そして、それをきっかけに、私は初めて成功とはなんだろうか、幸せとはなんだろうか、考えてみました。そもそも人はなぜ成功を求めるのか。おそらく成功の向こうには幸せがあると信じているからでしょう。しかし、進路調査用紙に書かれているのは自分の成功した姿のほすなのに幸せとは到底見えませんでした。そして、私はあることに気付きました。それはそれまで知っていた成功とは、回りから作られた偽の成功であって、自分の意見などどこにもなかったことです。そして、私は自分の成功を探し始めました。例えば、AさんとBさんがいます。Aさんは有名企業で働き、経済的に豊かです。それに対して、Bさんは有名でもなく経済的にもきつい生活をしている小説家です。ここで、質問です。AさんとBさん、どちらが成功に近いと思いますか。多くの人と同じように私もAさんの方が成功に近いと思います。それでは、もう少し話を聞いてみましょう。さっき話したAさんは有名企業で働いていて経済的にも豊かですが、いつも仕事が忙しくてろくに眠れませんか、毎日が疲れるそうです。それに対して、Bさんは有名でもなく経済的にもきついですが、昔からの夢だった小説家になって活動をして、多くはないものの、自分を支えてくれるファンたちもいて自分の生活に満足しています。ここで、また質問です。誰が成功に近いと思いますか。私はBさんだと思います。地位、経済力など、表だけを見たら、Aさんが成功したと言えますが、その中身を覗いてみると、自分の生き方を愛していて毎日を楽しく過ごせるBさんの方が皆さんが望んでいる成功に近いのではないのでしょうか。人にとって成功とは人それぞれなんです。そのため、成功には絶対的な基準がなく、故に、本当の成功、自分が幸せになるためには、自分に合う成功を見付けなければなりません。私が思う成功とは、自分の幸せが実現すること、そして、その幸せを追いかける過程も含めたすべてだと思います。今の私の夢は翻訳家になって、自分の翻訳で韓国と日本の間で文学をつなげる橋になることです。

この夢は誰でもない私の夢で、私の成功です。皆さん、皆さんも回りの基準に惑わされないで、自分に合う成功を追いかけてください。そうすると、皆さんもすでに成功者なのです。ご清聴ありがとうございました。

私がボランティア活動をする理由

高等部 성민규 (成珉圭, Seong Min Gyu)

皆さんはボランティア活動をした経験がありますか。はい、ここにいらっしゃる方々は皆ボランティアの経験が一度くらいはありますそうですね。なら、ボランティア活動をしなから'何でこんな活動をするんだろう'とか'この活動は何のメリットがあるんだろう'と考えてみたことはありますか。考えてみた方も、そうではない方もいらっしゃると思います。私がこれから話す内容はボランティアの効果についてです。皆さんの今までのボランティア経験を思い出しながら聞くと'あ、なるほど'とうなずけると思います。

私の学校の近くに'ソンシムウォン'と言うらい病患者たちのための施設があります。自発的にしたことですが、やはり最初はボランティアってつまらないことだと思ってたまに行きたくない時もありました。今になって考えてみれば生まれつきの性格が食事補助、散歩同行、話し相手などの活動にはむいていないからそうなるのも自然だろうと言うきもします。私の顔だって'そのような物は自分好みではない'と言ってるみたいな顔つきじゃないですか。でも、不思議にも'ソンシムウォン'に向かう道は楽しくなかったけど、実際に活動をしている時にはボランティア活動が嫌いではなかったのです。むしろ、心が落ち着くような気がしました。きっと、皆さんもボランティア活動をする時にそう感じたことがあると思います。他のことは一時忘れてボランティアに集中すると、憂いを短い間でも忘れられるし、浮き立った心をひとまず落ち着ける、これがボランティアの最も大きな効果であり、ボランティアをする一番の理由だと思います。そして、心の安定のため定期的にボランティア活動をする、活動中に小さな面白さも見つけることが出来ます。私の場合、話し相手をする活動からそれを見つけました。声がよく聞こえない方も多かったので円滑なコミュニケーションが難しい時もありましたが、そこの方々は話し好きだったので、一度語り始めると時も忘れて楽しく昔のことや、家族のことを話してくれます。さらに、たまに花札を引く時もあったんですが、その度、老人方たちは身は衰えても花札のうでは変わらないと実感しました。歩くところか、自ら立つのも上手くできないのに、花札を引く時は瞬間的な判断であかたんやくさたんを取ることをみて仰天しました。ちなみに、私の今までの結果はほぼ全敗です。とにかく、こうして'ソンシムウォン'で老人方々と楽しい時間を送ったあとは心が落ち着いて、何事にもやる気が出ることを感じます。

誰かはボランティアで気配りを学べると言います。もしくはボランティアで社会に貢献できるという人々もあります。それらは確かにボランティアで実現できる凄く重要なことです。ですが、私はボランティアの真の効果は配慮や社会貢献ではなく、活動者の心を落ち着かせ、日常に活力を与えてくれることであり、それが最も早く効果だと思います。何か悩み事があるとき、片時それを忘れてボランティア活動に集中すると、煩惱などを吹き飛ばせると思います。

2年間のボランティアを顧みると、それは老人方だけに大切な時間ではなく、私にも大切な時間だった気がします。'ソンシムウォン'は日常に疲れた私にちょっと日常から外れ、休憩できる、憩いの場でした。

愛のボランティア：献血

高等部 이원준 (李原俊, Lee Won Jun)

初めまして。私は信一高校の李原俊と申します。今日、私は私にとっての愛のボランティアについてお話ししたいと思います。皆様は何が愛のボランティアだと思いますか。多分、寄付や老人ホームでのボランティア活動を思っている方々が多いでしょう。しかし、私はちょっと違います。私は献血が真の愛のボランティアだと思います。

まず、献血とは輸血が必要な患者のために自分の血液をあげることを示します。人々からもらった血液があったため、今まで多くの命が救われました。しかし、最近「献血は痛いのでしたくない」、「自分がしなくても他の誰かがやってくれるものだから、大丈夫」と思っている人もけっこういます。確かに、現在、韓国の血液保有量を見ると6.7日分であります。適正血液保有量が5日分以上であることを考えると、今の状況は何の問題もないと思ってしまいがちです。しかし、O型は5.6日分であり、適正血液保有量を少し上回っているだけです。いずれ、この血液が減ることを考えると、これが余裕のある状況だと言える人はないでしょう。

では、どうすれば今の状況を変えることがえきるのでしょうか。まず、必要なのは国民の意識改善だと思います。いくら政府からの支援があっても、人々が献血をしなければそれまでです。現在、献血をした人に映画のチケットなどの贈呈品を渡していますが、献血をする人より献血をしない人がもっと多いのは事実です。献血することが面倒くさいと思っている人もいますが、自分の血液で他人の命を救えるということは本当に素晴らしいことでもあります。従って、人々にこのような考え方を常に持たせる必要があります。学校では子供達に自分の命だけでなく、他人の命も尊いものだということを教えなければなりません。また、家庭では親が積極的に献血をする姿を子供に見せて、子供が献血することに抵抗感を待たないようにすべきです。なお、政府は献血に必要な場所や設備を整えるなど、献血の活性化に取り組んでいく必要があります。

今、韓国の血液保有量はそんなに余裕のある状況ではありません。今も白血病などの病を患っている多くの人々が足りない血液のせいで苦しんでいます。彼らに必要なのは同情や哀れみではなく、血液であります。私も最初に献血をする時、不満を言いながら献血をしました。しかし、自分の血液で他人の命が救われるということを聞いて、心が温かくなりました。そして、あの日以来、私は毎年欠かさず献血をしております。今度は皆様の出番です。献血を通してより温かい社会を作っていきましょう。ご清聴ありがとうございました。

私が日本語のおかげで得られたもの

高等部 임윤호 (林潤鎬, Im Yun Ho)

こんにちは。景福（キョンボク）高校2年の林潤鎬（イム・ユンホ）と申します。

皆さんは普段、日本に関する事や活動にどのぐらい興味を持っていますか。いまこの場にいる皆さんは今回のスピーチ大会のような大会に参加する機会が他の方より多いと思います。そしてその中から私たちは日本語に関したことでなく、様々なものが得られます。今日は私からそのような経験に関して、私が「動く観光案内所」でしていたボランティアの話をしようと思います。

私は中学3年生のころからソウル市の観光協会が主催している「動く観光案内所」というところでボランティアをしています。「動く観光案内所」は制服を着て直接観光スポットを巡回しながら内国人、または外国人を相手に観光案内をするところです。

初めは日本語を話す機会があまりない国内で、ボランティアをしながら日本語を話す経験を積むために始めましたが、このボランティアのおかげで私は人を助ける事の喜びを感じることができました。それは私が中学3年生の時、南大門（ナムデムン）で始めてボランティアをはじめた時のことでした。人見知りだった私は主な業務だった観光案内と挨拶が苦手でした。いままで日本語を聞いたり読んだりすることは慣れていましたが、書いたり話すなど自分から何かを伝えることが苦手でした。そのため、初めはミスの連続で怒られてばかりで日本語に対する自信はだんだんなくなりました。一時は自分には向いていないのではないかと思い、ボランティアをやめるべきなのではないかと、悩んだこともありました。しかし何もせずにやめてしまっただけでは今までの努力が勿体ないと思いました。また、日本語に対する愛情が私を簡単にやめさせませんでした。その後、私はたゆまず努力し、指摘された所を改善することが出来ました。それにつれてボランティアの活動も成果が出てきました。

成果が出てきてから、今度は今まで見えなかったものが目に入りました。まず、一番大きい変化は案内が終わった後、観光客の方々からの感謝の言葉でした。今までは緊張したあまり、感謝されている事を気づかなかったので、私はこの発見に驚きながらもすごく嬉しかったです。自分にとっては知って当たり前のことも観光客の役に立っていると改めて感じました。その時になって、私はやっと今まで怒られたときに何故心に響くものがあったのかを悟りました。それは職員の方々が仕事に対し、韓国を代表する者として、そして観光客に便宜を与えるサービス職としての誇りを持っていたため、適度に済ませようとするボランティアの態度に腹が立っていたのだと思います。このことを切っ掛けに私もその気持ちを少しは分かるようになり、もっと多くの方が韓国にいい印象をもって笑って帰れるよう頑張りました。

私は正直、今までボランティアはただ義務的にするものだとおもっていました。しかしボランティアをしながら目の前で感謝の言葉をもらおうと、はじめは面倒だと思っていたことも、いつのまにか自分から積極的にボランティアをするようになり、自分のボランティアの活動にやり甲斐を感じるようになりました。

私の話はここまでです。どうでしたか。私は日本に、そして日本語に対して愛を持ち、様々な活動をしながら日本語だけでなく、人を助けることの喜びをすることが出来ました。多様な国の言葉がわかるということはその分、多くの機会が与えられるのを意味するのだと思います。

皆さんは言葉を通じて何を経験し、何を感じましたか。

以上です。イム・ユンホでした。ご清聴ありがとうございました。

韓日 中高校生 交流 訪日 研修

高等部 강홍석 (姜泓碩, Gang Hong Seok)

こんにちは。私はプイル外国語高校のカンホンソクと申します。

私は2015年韓日中高校生交流訪日研修に参加したことがあり、今日は韓日交流を通して感じたことについて話したいと思います。

熊本県牛深高等学校へ行った時、私は日本人の学生と書道の授業を受けました。書道が初めてで、どうやって字を書くのか分からなく慌てていましたけど、日本人の学生が親切に書いて見せながら筆の握り方を説明してくれたり、いい意味を持っている漢字を勧めてくれたりしました。授業時間に書いた字をお互いに交換するなど、いい思い出も作ることができ、有意義でとても楽しい時間を過ごすことができました。

日本でホームステイをした時は、初対面にもかかわらず、私たちを暖かく迎えてくれたお父さんとお母さんは、周りの美しい自然風景を見せてくれたり、日本料理が口に合わないかと心配して、いろいろな料理を並べてくれたりしました。そして、簡単な日本語を使いながら日本の面白い迷信などを話してくれました。お父さんとお母さんがささいなことまで配慮してくれたおかげで、楽しい時間を過ごすことができ、感謝するとともに、日本人の暖かい心を知ることができました。

私はこのプログラムを通じて政治、歴史的な背景と離れて、同じ学生としての共通点や違いを探し、理解していくと思います。また、韓日関係の間違った誤解や先入観を減らす役割を果たさだろうと私は信じています。もちろん、現在の研修プログラムも色々な見学などで理解し合えるために努力していることは分かっていますが、今のプログラムからもっと改善したらいいと思うことがあります。

研修する前の事前教育の時間ですが、今までは、研修の際に必要な事項や注意すべき点を教えるなどでしたが、学生同士のコミュニケーションする時間がもっと与えられたら学生の間で親近感が感じられ、不安や心配を減らし期待や希望を胸にプログラムに参加することができると考えます。

交流プログラムの最初では両国間の共感できる点を見つけられたらいいと思います。お互いの国の似ている部分を多く感じたら、負担を感じずに接することができるのではないのでしょうか。一緒に音楽を聞き、サッカーのようなスポーツで一緒に汗を流し、おいしい料理と一緒に食べたりすることで、韓日の二つの心は近づくと考えます。

ただ観光するのではなく、いろいろな伝統遊びや日常生活の経験、食べ歩きツアーのような活動の中で、日本を実際に感じ、学べられるといいと思います。

研修が終わってからの継続的な関心も重要だと考えます。SNSを活用したコミュニケーションなどができれば、ただの研修ではなく韓日両国間の明るい未来に繋がると考えます。

日本は近くても遠い国だと言われていますが、文化交流を通じてより深く理解できたら、日本と韓国は心理的にも、位置的にも一番近い国になれると期待しています。ご視聴ありがとうございました。

日本へのホームステイ

高等部 김민교 (金慇教, Kim Min Gyo)

はじめまして。

中学校2年生だった夏、私はホームステイという形で初めて日本に訪れました。

そこで私が何を感じ、何を得たのか。

それについて話したいと思います。

私は普段、日本文化に関心が多く、日本という国に憧れの気持ちを抱いていました。

そして、そういう私の気持ちを天が察してくれたのか、私の中学校と、姉妹結縁を結んでいたさぬき南中学校との間で韓日交流ホームステイ行事が開催されました。

私はこのチャンスを逃すものか！と思い誰よりも早く申請書を提出しました。

そして数ヶ月後、私は日本へと向かう飛行機に身を乗せました。頭の中は心配と期待でいっぱいになって、眠ろうとしても眠れませんでした。

それから数時間、いよいよさぬき南中学校に到着しました。学生達の歓迎を受けて、簡単な行事が終わった後、ようやくホームステイ先の家の家族と会えました。

ですが、ホームステイを受けてくれた玉城だくみという友達は他の重要な行事と日程が重なってしまってその場に来れませんでした。その代わりに彼のお母さん、お爺さん、叔母さん、そして従妹まで私を迎えに来てくださいました。

初めは友達がいなくて心配でしたが、私が先に日本語で話を掛けると、すぐいろいろと聞いてくださってそれに答えながら自然に話をし親しくなれました。

その後、回転寿司屋で夕食を食べました。もともと小食家の私が早めに食事を終わると玉城さんが「もしかして、遠慮するって言葉わかる？」と聞いてくださって遠慮しないでたくさん食べてとブルゴギ寿司を勧めてくださいました。

空いた皿の数によって食事の価格が決まる食堂だったので私が遠慮してると思われたようでした。初めて会う私にまるで息子や孫に勧めるように次々と皿を取ってくださるのがありがたくて満腹にもかかわらず何皿も寿司を食べました。

そして、夕方にだくみと会ってからは本当に退屈になる暇もありませんでした。

一緒に将棋をさしたり、テレビを見ながら夜遅くまで遊んで、その翌日も一緒に公園や博物館、神社に行きました。

そして、最後の日にはすっかり親しくなった玉城家の皆さんと一緒に夏祭りにも行って飛びつきり楽しい時間を送りました。

日本にいる間、玉城家の皆さんは私に香川県のいろいろなものを見せてくださり、私に良い思い出を作ってくれるために最善を尽くしてくださいました。

そして何より私を本当の家族みたいに接してくださいました。

今も漫画や映画の中だけで見ていた日本の家でくみと将棋をさしたり、ご飯を食べながら感じえた平和な時間が大切に忘れられません。

日本で過ごした短い間、私が習ったものは配慮と親切です。

本当の家族みたいに私に接して下さった玉城家の配慮と親切がどれ程ありがたくて、暖かいものなのか、それに気付いたとたん、知っているだけで実践出来てなかった配慮と親切が一人の人間にどれ程の力になるのかをおもいしました。

玉城家で教わった親切と配慮を、いつか誰かに伝えることが出来るような人に、私はなってみせます！

聞いて頂きありがとうございます。

人間と人工知能

高等部 김예린 (金 イェリン, Kim Ye Rin)

こんにちは。ソウル明德女子高校1年生の金イェリンと申します。

皆さん、この3月に行われたイセドル九段とアルファゴの囲碁対局をご存じですね。この対局は人工知能とプロ棋士の初対局ということで世界から大きな注目を集めました。5回の対局でアルファゴは計4回の勝利を収めました。すごいですよね。アルファゴはグーグルが開発した人工知能の囲碁のプログラムです。ここでいう人工知能というのは人間の学習能力と推論能力、知覚能力、自然言語の理解能力などをコンピュータプログラムで実験させた技術のことです。私は今日この人工知能と人間について語ろうと思います。

既に私たちは日常生活の中で多くの人工知能に触れています。例えば自動車や飛行機にある自律走行システムやiPhoneの‘シリ’というスマート秘書サービスなど。そして金融界には財務の設計してくれるロボットアドバイザーもあります。このような人工知能は1940年代にその可能性が初めて議論されて以来、目覚ましい発展を経て現在は人間と同じくらいの能力を持っています。今もその開発は終わることなく進んでいます。ですが、このまま開発を進めるのが正しいことでしょうか。人工知能の成長が続くといつか人間の専有物だと言われている芸術活動まででき兼ねません。さらに人間の脳と結合し自ら考え、その上に自ら成長することもできると言う学者達もいます。

では発展が進めば、私たちの生活にはどんな影響が与えられるのでしょうか。まず、伝染病患者の治療や検査、災害現場への投入など人間には危険な仕事を代わりにしてもらえます。そして人工知能の迅速かつ正確な分析能力を利用して複雑な病気の早期発見や気候変化を予測し自然災害を予防したり、もしくは宇宙探査みたいなこともできます。しかし光があれば影ができるようにその危険性もまた存在します。まず人工知能が我々の代わりになる分野が広まれば広まるほど多くの職業が無くなってしまいます。これはすなわち今の経済体制が崩れる原因になるかも知れないということです。万が一、人工知能が悪用されたらそれらを利用した非倫理的行為が行われるのは明らかな事実だと思います。なおかつ人工知能が自我を持ち自分自身をコントロールすることができるようになれば逆に人類の未来を脅す存在になる恐れもあります。彼らが保有している膨大な量のデータと素早い分析及び判断能力に自我が加わったら人間の力ではもう彼らをコントロールすることはできません。

もはや人間と人工知能の共生は避けられない現実になりました。上記で述べたように人工知能は便利な道具とは言えその危険性は絶対無視できません。ですが結局‘人工’知能を生み出すのは人間、つまり今の私たちです。これからの人工知能が人類の敵になるかそれとも味方になるかは我々人間の手にかかっています。

ご清聴ありがとうございます。

自ら踏み出そう

高等部 김지원 (金智元, Kim Ji Won)

こんにちは。私は汝矣島高校の金智元と申します。これから私の考える韓日問題の解決法について発表させていただきます。

去年、韓日中首脳会談が開かれました。予想通り、経済の協力だけを唱え、歴史問題や領土問題は全然取り上げられなかった、残念な会談だったと指摘されました。世界に莫大な影響を与える東北アジアの3国ですが、国民感情はお互いの経済の依存関係とは違って、仲直りはまだ遠くのことだと感じられます。特に韓日関係は政治家の発言や歴史的な感情による反日、嫌韓団体のデモ、領土紛争などで最悪まで至っているといっても過言ではない状況になっています。両方が感情的になりすぎて、日本のあるサイトでは凶悪犯はすべて‘在日韓国人’だと断定していますし、韓国のあるサイトではコメントで日本人を‘放射能に汚れたサル’と非難しています。人々が問題を解決しようとしているのではなく、問答無用に相手を‘チョッパリ’、‘バカ朝鮮人’と非難する、誰にもよくない、できるだけ早く解決すべきの悪循環が当然なことのようになっています。

私は韓日の様々な問題を解決するためには事実を基に中立的で、均衡のある判断をしなければならぬと思います。問答無用に相手に悪口を言う前に、知職を増やして問題の事実関係を把握するのが何よりも大事なことです。韓国と日本はものすごい予算をかけて学校で自分の主張を教えています。韓国人が‘領土問題’、‘慰安婦に謝罪と賠償を求めろ’と唱えるのに根拠があるものと同じように日本人の主張にもそれぞれ理由があります。問題の解決のためには相手の主張が自分の気に入らなくても理解しなければなりません。日本の主張とその根拠を全然わからないまま反論しようとするので感情的になって、人身攻撃につながってしまうからです。

それでは、私たちはどうしたら日本の立場を知ることができるでしょう。答えはとても簡単です。私たちが他の国に興味を持つように、日本に興味を持つことです。日本大使館のホームページには日本の立場から書かれた主張とその根拠がご覧になれます。それを読むだけで日本の立場が簡単にわかってきて、これらに対して私たちの知っている知職を用いて論理的に反論することもできるでしょう。反対に、今まで知らなかった新しいことに気づくかもしれません。‘敵を知り己を知れば百戦危うからず’ということわざがあります。もし、ある日本人が感情的に韓国を非難するとき、私たちが事実を基に論理的に反論したら、きっと納得してもらえるでしょう。両国の国民1人、1人がお互いに説得と理解を積み重ねば韓日のいろんな問題を解決することができるはずですよ。

未来の主演である私たちから踏み出せば東北アジアの発展はもちろん、世界の平和までも貢献できるに違いありません。私は韓日関係がより深くなって経済的な協力だけではなく、政治、文化的な交流までできる、輝く韓国と日本の未来が訪れる、その日を待っています。

ご清聴ありがとうございました。

友情、夢、選択

高等部 유재영 (柳在泳, Yu Jae Yeong)

この大会で私は何を話すべきかを悩みながら前回の生徒たちが書いたスクリプトを読みました。重い主題はありませんでした。ですが私はここで重い話がしたいです。重すぎるかもしれません。私以外の人たちにはどうでもいい話かもしれません。ですがせめて私はこれだけが私の語るべき物語だと判断しました。なのでぜひ聞いてください。これは友情、夢、そして選択の物語です。

私が通っている高校は結構名高い学校です。生徒たちは皆自分でこの学校に来るのを望み、試験を受けて入学許可をもらったのです。ですが一年半の間、私のクラスから6人も出て行きました。26人しかいないクラスで6人が、その中の4人が自分で望んで学校を去ったのです。

いじめられていたわけではありません。成績のことで悩んでいたわけでもありません。ただ、彼らは自分の夢を追って学校を出るという選択をただけです。韓国で一般的な高等教育を受けるとこういう悩みはめったにないでしょう。学校の成績か、受験の成績か、その二つだけです。ですが国際教育を受けている私達には選べるカリキュラムが多いです。目標とするのがどの国のどの大学かによって選ぶべきカリキュラムが決まるのです。間違ったカリキュラムを選んだなら死ぬほど努力してそれを乗り越えるか、それとも学校をでるか、その二つの方法しかありません。

昨日、また二人が去りました。クラス3位、4位だった生徒たちです。私はあの生徒たちが一日5時間以上寝のを見たことがありません。とても頑張り屋で性格もいい彼女たちはここで、自分たちが一度選んだ学校で積み上げてきたものを投げ捨てて未練を残さず去りました。

彼女たちは言いました。確信があったから学校を去ることを決心したと。それで私は聞きました。何の確信かと。彼女たちは答えました。一年生のときからずっと、違うカリキュラムだともっとよくやれると確信していたと。でも友達の、この学校に残るはずの者達のことを考えて転校しなかったと。自分が努力すれば、一日5時間寝て勉強すればできるはずだと、そう思っていたと。でもどれほど努力してもできないことがあると気づいたから一つだけ選択するしかないと確信したと、彼女たちはそう言いました。そして彼女たちは友情を諦めて夢を選んだのです。

本当に友情と夢二つとも持つことはできないのでしょうか。まあ、できますよ。ただ、夢が大きければ大きいほど、叶えづらければ叶えづらいほど、両方とも得ることは難しくなるのです。私も最初はできると思っていました。でもこの絶望のような選択は少しずつ迫ってきます。

重すぎる話でしたか。すみません。これを最初を書くときはこんなに重くするつもりではなかったんですけどね。仕方ありません。私も望んでいますよ。本当に、選択のない友情と夢だけの物語だったらよかったんですけどね。

ご清聴ありがとうございました。

ボーカロイドが私にくれたもの

高等部 이현준 (李滋俊, Lee Hyeon Jun)

今日は皆さんに私の好きなサブカルチャーについて紹介したいと思います。

皆さんはボーカロイドを知っていますか。ボーカロイドというのは人が人工的に作った歌声にキャラクターを与え、まるでキャラクターが直接歌を歌うような音楽を作り上げる面白いプログラムです。

発売した最初はこのプログラムの存在すら知っている人が少なかったんですが、現在はボーカロイドのキャラクターのホログラムコンサートが毎年開かれているし、歌を原作とした映画とアニメが作られるなど日本のサブカルチャーの世界で大きな役割を果たしています。

私の思うボーカロイドの人気の理由は何かを作りたいと思う人の欲求を刺激するということです。ある一人が歌を作ると、他の誰かがその歌に合う映像を作ったり、気に入った歌を自分が歌ったり、その歌の雰囲気に合わせて振り付けをくみ上げて踊ったり、ギターやピアノの演奏家たちが歌に合う演奏で自分の腕前を自慢したりするのです。その上に3, 4分に過ぎない一曲の歌詞をモチーフにしてストーリーを再構成し自分なりの小説を書くなど、一つの創造がまた別の創造を生み出す独特でクリエイティブな文化が形成されたのです。

特に好きなこともなく無味乾燥な生活をしていた私に、それはあまりにも魅力的な文化でした。ネットで複数のブログを回りながら新しい曲を探しその映像を見たり、歌詞を繰り返し吟味したりするといつのまにか何時間が過ぎていました。気に入った歌を発見して一日中口ずさみながら'私も自分の歌を作りたい'と思って、ノートに音符を書いてみたり、踊りの映像を見て鏡の前で踊ってみたり、素敵なピアノ演奏を聞いてはピアノはひけない代わりにリコーダーで曲を演奏してみたり、歌詞にストーリーを付け加えて短い小説を書いてみたりしました。

また、音楽の歌詞をいつも解釈していたおかげか、自然に日本語の実力も伸びて最近では日本の漫画を紹介するウェブサイトでも翻訳したこともあります。翻訳する時、知らない文章が出てきても、このサイトの他の翻訳者たちの助けを受けて、最後までやり遂げることができました。

このように情熱を燃やした経験は今も私の記憶に生き生きと残っています。振り返ってみると、そのどれもが大切な思い出です。

退屈な私の日々は、ボーカロイドに会ってから大きく変わり、この世の中には面白いものがいっぱいあるということが分かるようになりました。

私はこれからもいろんなことに挑戦していくつもりです。

まだ私が知らない面白いことを探し、大切な思い出を増やしていきたいからです。

お聞きくださいませ、真にありがとうございました。

私のターニングポイントとなった日本語

高等部 한동우 (韓東佑, Han Dong U)

私たちは一生の中で、数多くのターニングポイントを迎える事になります。いつ、ターニングポイントを迎えるのかは人によって違いますが、私は今までに二回のターニングポイントを迎えたと思います。そのきっかけとなったのが日本語だと言っても過言ではありません。これからお話しするのは今の私にとって、この二回のターニングポイントに関する話です。

小学生の頃の私は、内気な性格で、友だちとの付き合いも苦手なアウトサイダーのような存在でした。当時、日本のアニメは誰とでも仲良くなるキャラクターとや興味深いストーリーなどで小学生の私を魅了しました。

そして中学校に進学して2年間は小学校時代と変りのない日々でした。しかしある日、二人の友だちから声をかけられました。その友だちと私とは正反対の性格でしたが、私のようにアニメが好きな、いわゆる"オタク"でした。その二人の友だちと、中学3年生の時間を共に過ごしながらアニメのセリフを言ったり、自分好みのキャラクターについて話し合ったりしました。その内に、いつの間にか、明るい友だちの性格に似ていく自分に気がきました。

日本語とアニメを通じたコミュニケーションが私の性格を変えてくれた事、これが一回目のターニングポイントです。友だちもっとたくさん事を分かち合う為に日本語を少しずつ学ぶようになり、日本語に対する関心もどんどん強くなりました。

そして高校2年生の冬休みに、二回目のターニングポイントが訪れました。

高校1年生の時の夢は検事でしたが、法律関係の大学に進学するには成績が足りなかったため、挫折していました。その年の冬休みに、私が過ごした高校1年を振り返ってみて漠然と検事になりたかっただけで、全然努力しなかった自分にがっかりしました。"私が本当にやりたいことは何か"という問いを繰り返していたある日、考えついたのが通訳と翻訳に関する仕事でした。今までの日本語やアニメへの関心は日本語の勉強の礎となり、通訳や翻訳のための日本語を学ぶのに役立ちました。

それでも、これが果たして本当に自分が進むべき道なのか漠然とした疑問を抱いていました。

その疑問が解けたのは高校2年生の時の冬休みでした。高校の友だちと一緒に日本を旅行した時、私は通訳として活躍しました。駅でチケットの買いし方を教えてもらう時や友だちが買い物をする時に通訳をした時、カバンが開いていると親切の教えてくださったおばあさんと話している時、胸がドキドキして喜びでいっぱいになりました。日本語がはなせるから友だちと日本の方とのコミュニケーションを手助けできたんだ、違う場所に住んでいても笑いながら話せるんだ、と言う思いが、"本当に通訳になりたいのか"、と言う疑問を"通訳になりたい"と言う確信に変えてくれました。この旅行が私の二回目のターニングポイントになりました。これをきっかけに通訳と言う夢に確信を持つようになりました。

ターニングポイントは些細なところで得られる貴重な体験だと思います。皆さんも是非、素敵なターニングポイントに巡り合ってください。

ご清聴ありがとうございました。